

◀ 「特殊コレクション」 巡り ① ▶

この号から学内に数多くある「特殊コレクション」を順次紹介していきたいと思います。小さくても蒐集者の目のいきとどいたコレクション、文献案内の類にもこれまで紹介されることがなかったコレクションが学内にまだすくなくならずあるはずです。また例えば本館の「図書館利用案内」などに、その名称、冊数などの紹介はあったが、内容や寄贈者、寄贈のいきさつについて触れられることがすくなくあったものもかなりあります。このシリーズでは、できるだけこのような点にも触れて紹介していきたいと思います。

法学部

法学部では、洋書の特殊文庫としてハチュック、ターナー、トゥールの三文庫を所蔵しています。この三文庫はともに第一次世界大戦の賠償の一部として、ドイツから日本に供与されたもので、その後昭和6年に大蔵省から京都大学へ移管され、さらに昭和7年3月31日に法学部へ受け入れられたコレクションです。

ハチュック文庫は、ワイマール憲法下において国法学および行政学の分野で活躍し、またドイツとイギリスの比較法の専門家として、イギリス公法の研究においても大きい業績をのこしたJ・ハチュック(1872—1926)の旧蔵書であるため、公法学に関する図書が多く、なかには哲学史の図書も含まれています。また、19世紀後半の学者の蔵書に共通しているように、当時としても古書にあたる18世紀の文献もみられ、Allgemeines Gesetzbuch für die preussischen Staaten, 1791. や Allgemeines Landrecht für die preussischen

Staaten, 1817. などは全国的視野からみても貴重な存在となっており、古書としての意味もさることながら、原資料としての価値をもっていると思います。

ターナー文庫は、教会法に造詣が深かったフリードリッヒ・ターナーの旧蔵書であるため、特に教会法関係の図書が多く、また教会法の性格上、古くは16世紀にさかのぼる文献もあり、貴重書としての価値のあるものもかなり含まれております。

教会法はいうまでもなく実質的にドイツ民法典成立以前のドイツの家族法の役割を果たしてきたので、世俗の現行法と区別されたものとして考えられず、法制度として妥当性をもっています。その意味でヨーロッパ家族法史を研究する者にとって重要な意味をもっております。しかも最近では日本の学会でも民法学史だけでなく、法制史の分野からも教会法の研究が盛んになっており、また法学史研究の動向にみられるように原資料の利用にむかいはじめた段階において、この文庫の価値は高く評価されるべきでしょう。

トゥール文庫は、ロマニステンに属しその精細・周密な体系は、ドイツ普通法の伝統に最後の光輝をそえたといわれる民法学者A・トゥール(1864—1925)の旧蔵書であるため、19世紀から20世紀に出版された歴史法学以前の私法関係の図書が多く含まれています。現在ドイツでは古典的な著作の復刻が盛んであり、19世紀の文献が相当復刻されているので、この文庫の図書は原資料であるという意味において価値をもっております。

なお、目録は以下のように、1976年3月「ターナー文庫目録」が刊行され、つづいて1977年3月には「ハチェック文庫目録」および「トゥール文庫目録」が刊行されています。

Katalog der Friedrich Thaner Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

Katalog der Julius Hatschek Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

Katalog der Andreas von Tuhr Bibliothek in der Juristischen Fakultät der Universität Kyoto.

大惣本の調査，第二年次に

「静脩」22巻1号でお知らせしたように、新館移転後の附属図書館では4階の調査研究室において、図書館資料の整備、解題などの作業を文学部の援助をえてすすめている。第一年次（昭和60年度）のテーマはすでに紹介したように、大惣本の目録解題の作成であり、その基礎的作業として

の各文献の書誌的調査が文学部日野龍夫助教授の指導のもとに、大学院、学部学生諸君によって進められてきた。本年4月現在で約半に相当する1,167点のカード作成が完了した。昭和61年度も同じテーマのもとにひきつづき調査がつづけられている。

「洋学史資料展」—— 附属図書館

附属図書館では下記の要項で展示会を開催する。

テーマ 「洋学史資料展」

日時 昭和61年11月20日(木)ー28日(金)

場所 附属図書館展示ホール

展示本の内容は江戸時代の日本に招来された洋学の中でも、その中心となった医学、自然学、技術、地理学をはじめ、その媒体としての役割を果たした外国語文典、辞書などが予定されている。

なお、11月25日(火)午後2時からは本学名誉教授の吉田光邦氏の「洋学と日本の近代」と題する講演がAVホールで開催される。

「近世の小説本展」—— 教養部図書館

教養部図書館では読書の秋にふさわしい展示企画を、検討してきたが、このほど次のようにテーマ、日程が決った。

テーマ 近世の小説本

日時 昭和61年11月4日(火)ー29日(土)

9時ー4時30分

場所 教養部図書館1階

閲覧室展示コーナー

内容は近世における小説の移り遷りが概観できるように仮名草子、浮世草子、読本、洒落本、談